

(別紙2)

平成29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)

「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」

検討課題(5)「無痛分娩の安全性向上のための医師・医療スタッフの
研修体制の整備に関する検討」

「無痛分娩の実地・実技研修」の実情

「無痛分娩の実地・実技研修」の実情 埼玉医科大学総合医療センター・産科麻酔科

- 産科麻酔部門設置:2000年
- 産科麻酔研修コースの種類と研修者(下表)

コース	川越周産期麻酔フェロー	当科専攻医プログラム	産科麻酔研修コース	麻酔科標榜医コース
対象	麻酔科専門医もしくはそれに準じる	当院麻酔科専攻医	他院麻酔科医	産婦人科医
期間	1年(最長2年まで)	6カ月	2か月から1年	2年、開始は年1人
目的	産科麻酔のリーダーを育てる	麻酔科専門医取得	産科麻酔経験を増やす	麻酔科標榜医取得と産科麻酔研修
内容	産科麻酔全般(ハイリスク)、新生児麻酔、研究、マネジメント	帝王切開、無痛分娩、採卵、外来	帝王切開、無痛分娩、採卵、外来	1年目麻酔全般、2年目産科麻酔
修了者数	9	24	41(国外1)	1(在籍中1、予定2)

「無痛分娩の実地・実技研修」の実情 国立成育医療研究センター・産科麻酔部門

- 産科麻酔部門設置:2007年
- 産科麻酔研修の内容
 - 麻酔科医対象
 - 短期(1ヶ月~6ヶ月):麻酔科専門医取得前または後に産科麻酔の基礎を学ぶ 58名
 - 長期(6ヶ月以上):subspecialtyとしての産科麻酔を学ぶ 10名
 - 産科医対象
 - 短期(3ヶ月~6ヶ月):産科医として帝王切開や無痛分娩の麻酔の基礎を習得することを目的とする 34名
 - 長期(6ヶ月以上):産科医として産科麻酔を実践できることを目的とする 2名

「無痛分娩の実地・実技研修」の実情 北里大学病院・産科麻酔部門

- 産科麻酔部門設置:2010年
- 産科麻酔研修コースの内容
 - 対象者:原則として麻酔科経験3年以上の医師
 - 研修期間:原則として6ヶ月だが弾力的に対応(実際には3ヶ月のことも多い)。北里大学病院麻酔科チーフレジデント経験者は週3日3ヶ月)
- 産科麻酔研修修了者:45名
 - 麻酔科医42名
 - 外部 15名(外国人2名含む) 3ヶ月から1年
 - 内部 27名
 - 産婦人科医3名(連続3ヶ月1名・見学中心10日間1名・週3日4ヶ月1名)

「無痛分娩の実地・実技研修」の実情 順天堂大学医学部附属順天堂医院・産科麻酔部門

- 産科麻酔部門設置:2014年
- 産科麻酔研修コースの内容
 - 麻酔科医対象コース
 - 短期(1ヶ月~6ヶ月):麻酔科専門医取得前に産科麻酔の基礎を学ぶ 15名
 - 長期(6ヶ月以上):麻酔科専門医取得後にsubspecialtyとしての産科麻酔を学ぶ 5名
 - 産科医対象コース
 - 短期(3ヶ月~6ヶ月):産科医として帝王切開や無痛分娩の麻酔の基礎を習得することを目的とする。(緊急の帝王切開の麻酔管理が必要となった場合は対応できることを目標とするが、無痛分娩を自分で担当できるようになることを目標とはしていない。麻酔科医とチームとして協働するために麻酔の基礎を学んでいただくことが目的である。) 15名
 - 長期(6ヶ月以上):産科医として産科麻酔を実践できることを目的とする。麻酔科標榜医の取得を目指す。 1名

「無痛分娩の実地・実技研修」の実情 大阪大学麻酔集中治療医学教室

- 産科麻酔部門設置:2016年
- 産科麻酔研修コースの内容
 - 麻酔科医対象コース
 - 麻酔科専門医取得後にsubspecialtyとしての産科麻酔を学ぶ
 - 定員2名(修了者2名)
 - 期間は一年間
 - 産科麻酔の指導者となることを目標としている
 - 産科医への麻酔教育
 - 1-2ヶ月の麻酔業務への従事とその後病棟で無痛分娩の研修を麻酔科医と共に進行
 - 定員なし
 - 麻酔科で蘇生技術を学ぶと共に無痛分娩の合併症への対応等を学ぶことを目標としている

「無痛分娩の実地・実技研修」の実情 浜松医科大学医学部附属病院・麻酔科蘇生科

- 産科麻酔部門なし
- 産科麻酔研修
 - 目的

研修医に対しては、産科麻酔を学び経験する機会を提供することで、麻酔科の魅力を発信すること、麻酔科医に対しては、産科麻酔の基礎を学び経験する機会を提供することで、専門医取得後のsubspecialtyとしての産科麻酔という選択肢を提供すること、地域の関連病院での産科医療の安全性向上に貢献できる麻酔科医を養成すること。
 - 帝王切開術の麻酔

対象者:初期研修医(区域麻酔の穿刺は見学のみ、主に管理を上級医とともに経験し学ぶ)、後期研修医と麻酔科標榜医取得までの麻酔科医(上級医の指導のもと、区域麻酔の穿刺から術中管理までを学ぶ)、専門医取得までの麻酔科医(原則的には一人で麻酔を行い、前置薬量調整など困難な症例では、上級医の助言や指導のもと管理を経験し学ぶ)
 - 無痛分娩

対象者:初期研修医(区域麻酔の穿刺は見学のみ、上級医からの講義と管理を上級医とともに経験し学ぶ)、後期研修医から標榜医取得までの麻酔科医(上級医とともに穿刺から分娩、産前早期までの管理を経験し学ぶ)、標榜医取得以降の麻酔科医(経験のある上級医の助言と指導のもと一人で管理を経験し学ぶ)

東京大学医学部附属病院の無痛分娩実施、教育体制の紹介

麻酔科側の体制

産科麻酔チーム: 麻酔指導医1名、麻酔専門医3名の4名からなるチーム編成

2014年に発足し、麻酔指導医1名から開始して、徐々に人数を増やして現在は4名の体制

毎日1名が分娩室の専属対応、残り3名は手術室内の麻酔科一般業務を実施。

産科麻酔チーム医師の業務内容

- 無痛分娩における硬膜外カテーテル挿入、薬剤投与に関する指示、副作用出現時の対応

産科医師への硬膜外麻酔に関する手法や副作用出現時の対応についての指導

- 全ての分娩(無痛の有無に関わらず)での緊急帝王切開時の手術室の準備体制の調整

- ハイリスク合併症を有する母体に対する妊娠中の事前評価(産科麻酔専門外来を開設)および帝王切開時の麻酔方法の事前決定

年間1200件の分娩に対応。全体の帝王切開率34%
無痛分娩数 350件(無痛分娩の帝王切開率: 初産20%、経産3%以下)

東京大学医学部附属病院の無痛分娩実施、教育体制の紹介

産科側の体制

産科勤務の全体医師数

産婦人科専門医: 10-12名

産婦人科専門研修中の医師: 2-5名

初期研修医: 1-2名

この中で24時間体制で下記の3-4名の医師が、分娩管理の業務全般、無痛分娩の管理に対応。
産婦人科専門医: 2名
産婦人科専門研修中: 1-2名

無痛分娩の研修状況: 産科医としての勤務の中で麻酔科医の指導を受ける

- 研修対象者: 産婦人科専門医、専門研修中の医師
(それぞれが分娩管理の業務担当となっている日に研修: 各医師が週2-3件程度の経験頻度)
- 産科麻酔チームの麻酔科専門医の直接指導を受けながらカテーテルの挿入手技、麻酔効果の判定、副作用発生時の対応について研修を行う。
- 大学病院内での産科勤務経験が3年程度以上(麻酔科医師の指導の下での無痛分娩対応経験が150件程度)を超えている医師については、病棟内に麻酔科医不在の状況においても硬膜外麻酔の実施を行う。
- 周産期分野を専門としている医師の場合は、産婦人科専門医取得後4-5年(医学部卒業後9-10年)の時点で上記の条件を満たす研修経験となることを目指している。